



景品が当たる福豆まきで受け取ろうと手を伸ばす来場者

福豆まきに 2000人
❖ 日吉神社節分大祭



大久保市長も登場しました

2月3日の節分、日吉神社（日吉町）で節分大祭が行われました。毎年恒例となっている福豆まきでは、来賓と年男、年女が3000個の福豆を5回に分けて、詰め掛けた約2000人にまきました。また、商売繁盛や家内安全、開運を祈願する「追儺の儀」が行われた他、境内では、福笹が配られたり、参拝客にあめ湯などが振る舞われたりしました。

酒造りの伝統を学ぶ
❖ 小学校で
民謡の体験授業

1月22日、29日、31日、城島・三瀬町にある八つの小学校の4年生を対象に、「地元民謡「筑後酒造り唄」の体験学習が行われました。

唄の保存会のメンバーが学校などに出向き、地元で伝わる酒造業の歴史を説明した後、歌い方や拍子の取り方などを指導。子どもたちは真剣な表情で学んでいました。最後に、みんなで覚えたての民謡を歌いました。



子どもたちの前で「酒造り唄」を披露する保存会の皆さん

甘酸っぱい春の味覚

❖ 観光イチゴ狩り

1月から、藤山町、北野町、田主丸町の5カ所の観光農園でイチゴ狩りが始まりました。品種によって甘さや酸味が異なり、あまおうなど全部で9種類の味を楽しむことができます。朝早くから開園を待っていた長谷川洋子さん（田主丸町）は、「収穫してすぐに食べる味は格別です。実が大きく食べ応えがありますね」と話しました。5月中旬ごろまで楽しめます。



赤く熟れたイチゴを選んで収穫する長谷川さん

市政の動き

学生が街なかで社会実験
起業家精神を育成



ピンクが基調のデザイン。机やこたつ、本もあり、居心地の良さにこだわっています

久留米市は、創業しやすい環境づくりを進める施設として、平成28年4月に「くるめ創業ロケット」をオープンしました。その取り組みの一つとして、大学生が起業家精神を身に付けるためのプロジェクトを、29年度に発足しました。そのメンバーの発案で、西鉄久留米駅の商業ビルの空き店舗を活用した社会実験が、1月15日にスタートしました。「街なかで学生の居場所が必要か」をテーマに、学校や自宅以外の第

三の居場所を設けて無料で開放。学習やミーティングなど、さまざまな用途で使えます。大学生9人で3月末まで運営します。発案した相田拓実さん（久留米大学大学院1年）は、「今は勉強しに来る人が多い。ミーティングをしたり、時にはイベントを開いてみたいと、もっと自由に使ってもらえるように工夫したい」と話しました。◎新産業創出支援課 ☎0942・30・9136、FAX 0942・30・9707

相談会を東京で定期的を開催
久留米への移住を後押し



「久留米市の日」では、移住コンシェルジュが移住を考えている人の相談に対応

市は、久留米への移住を後押しするため、相談窓口を設置しています。窓口には、久留米を良く知る移住コンシェルジュを配置。医療や子育てなどの暮らしの情報提供の他、住まいや仕事の相談などに対応しています。東京では、新橋のアンテナショップ「福岡久留米館」で、週に1回、相談会を開いています。また、有楽町にある福岡県内の市町村への移住相談窓口、「ふ

くおほかよかとこ移住相談センター」でも、毎月2回「久留米の日」を設けて相談会を開催。2月6日も、移住コンシェルジュが移住希望者の相談に対応しました。今後、市の魅力の発信や移住希望者へのきめ細やかな支援など、久留米への移住を促進する取り組みを進めます。◎東京事務所 ☎03・3556・6900、FAX 03・3556・6678